

ご挨拶



天理教民生児童委員連盟委員長
山田 常則

令和5年4月1日、内閣府の外局にこどもまんなか社会の実現に向けて、こども政策を更に強力に進めていくため「こども家庭庁」が開設されました。少子高齢化と言われて久しく感じますが、いよいよ現実に直面する時代になり対策が急がれます。

総務省の発表では、日本の総人口（2022年9月15日現在推計）は、前年に比べ82万人減少している一方、65歳以上の高齢者人口は、3千627万人と、前年（3千621万人）に比べ6万人増加し、過去最多となりました。なお、75歳以上人口は、総人口に占める割合が初めて15%を超えました。これは、いわゆる「団塊の世代」（1947年～1949年生まれ）が2022年から75歳を迎え始めたことによると考えられます。一方、厚生労働省はこのほど、2022年の人口動態統計（概数）を取りまとめ、公表しました。出生数は7年連続で減少。過去最少だった21年を4万875人下回る77万747人となり、初めて80万人台を割り込みました。名実共に少子高齢化社会に突入しています。

令和4年の小学生人口は約600万人。私達が小学生の

時には約1千300万人で半減しています。近年、子どもの貧困、ヤングケアラー、児童虐待、いじめ、不登校、こども食堂、フードバンク、里親、などの言葉がよく聞かれます。これらはすべて次代を担う子ども達が健やかに育つために私達が取り組まなければならないことです。絶えずアンテナを張り子ども達からのサインを受け止めなければなりません。

こども家庭庁のまとめによると、児童虐待は令和4年度には全国の児童相談所が相談を受けて指導や対応などを行った件数は、今までで最多の21万9千170件でありました。毎年増加を続けています。子ども達に対するケアはもちろんの事、世話取りをする保護者などに対しても十分な対策が必要です。少子高齢化が進み、一人ひとりの子ども達が大切に育てられるはずなのに、子育てが困難な保護者への支援が不十分になり生活が困難になることがあります。社会全体で子育てを支える仕組みが求められています。身近なところでの手助けやちょっとした心遣いが援助に繋がることがあります。行政の手が届かないところでの地道な援助ができるのは民生児童委員の活動の一つであると思います。私達は道の民生児童委員として、細やかな見守りを通して、互い立て合いたすけ合って、安心して子育てのできる社会になるように努めたいと願っています。



『おやさと研修会』基調講演（令和4年11月25日・於社会福祉課研修室）

「社会福祉活動について」



講師
天理大学人間学部人間関係学科
社会福祉専攻教授
渡辺 一城 氏

はじめに

天理大学の渡辺です。日頃は民生児童委員活動を通じて地域福祉の推進にご尽力いただきまして誠にありがとうございます。私は大学で地域福祉という領域を勉強させて頂いております。また共同募金運動の推進という事で委員をさせて頂いております。

■テーマ型共同募金

共同募金の使い道は配分委員会や配分の中身を決める審査委員会のようなところで決めていて、寄付をする側が寄付先を選べるという仕組みではないのです。しかしそれでは共同募金の活性化につながらない。寄付をするにあたってのインセンティブに繋がらないという事で最近始まったのがテーマ型募金です。寄付者が寄付先を選べるのです。全国的にこのテーマ型募金が広がっています。

奈良県では「びくすぺくすプロジェクト」という名前で安心な空間、安心

できる居場所づくりの活動を支援していこうというテーマで、奈良県の共同募金委員会が10年ほど前に始めた活動があります。これは大学生が作り出した。ネーミングしたのは学生なのですが、安心できる空間づくりに資金面から応援していくことという活動です。テーマや趣旨に賛同したことも食堂や高齢者の地域交流施設等様々な団体にエントリーして頂いています。

■無料学習塾

最近では無料塾があります。定年退職された中学校の先生方が教育の格差というものをものすごく身に染みて感じている。その教員経験を踏まえての活動です。現在の教員の業務量もものすごく増えて忙しく、フォローしなればいけない生徒さんがいっぱいいるのだけれども、中々そのフォローをすることができない。そういうことでどんどんどんどん格差が出てきてしまつて、経済的な余裕のある家庭の子どもは有料塾に行かせることができるけども、なかなかそういう世帯ばかりではない。コロナ禍になって色々な学校が休校になりましたけれども、有料の塾って実はやってるんですよね。結構営業している所が多い。学校で勉強で



きなくとも経済的な余裕があるので塾に行ける。勉強する事が出来る。経済的な余裕がないところの子どもさんとの教育の格差はどんどん広がっていく。これではいけないということで始めたのが無料塾です。

奈良市と郡山市で今支援をされているお子さん方は60人くらいだといいます。大学生のボランティアや元教員の先生方が集ってこのプロジェクトに参加して頂いています。共同募金委員会とか我々だとか一緒に募金活動もしています。こういう無料塾は行政からの助成金や補助金は特にあるわけではありませんので寄付で成り立っているのです。自分達の教育活動を行う教室の家賃も寄付で賄わないといけないので非常に財政的には大変なのです。そのような団体の人達と一緒に資金融面で現場の活動を応援しようという活動に関わらせて頂いております。

■フードバンク

もう一つはフードバンクです。民生委員活動をされている方ですでにご存じの方は多いと思います。本当は十分に食べる事が出来る食品が廃棄されてしまう。商取引の色んなルールで企業の持っている食品を廃棄してしまうようなことがあります。家庭内でも余っている食品もたくさんある。そのようなものを集めて本当に必要なとしている所に提供していただくという活動がフードバンクです。全国で大体150くらいの団体があると聞いております。200という

フードパントリー

- ・「誰もが職に困ったときに無償で食の支援が受けられる場所（活動）」のこと。
- ・フードバンク、こども食堂、企業・店舗、農家、NPOなどが主体となっている。
- ・ひとり親家庭、一人暮らし高齢者、生活困窮者、あるいは学生などは、配布の対象となっている。
- ・食品ロス削減に寄与すると同時に、何らかの生活困難を抱えた家庭と直接つながるきっかけとなる活動といえる。

ような数字も見たいことがあります。

奈良県内では数年前に「フードバンク奈良」という団体が作られました。僕も数年前までは役員をさせて頂いていました。やはりしんどい思いをして生活しておられる方々の食を支援させて頂いていただくことは非常に大事なことで、天理でフードバンクを作りたいと思って仲間と一緒にどんどん話をして行きました。一方で天理教青年会本部もやりたいと言いましたので、それでは一緒にやれば良いのではと思つたのです。

またそのフードバンクという活動に関しては、結構天理市の行政の方が比較的積極的に応援をしてくれていたもので、行政と天理教青年会本部と我々有志、また熱心な市会議員の方や民生委員、それから社会福祉協議会も巻き込んで、「官・民・学・産・宗」という僕が作つた言葉なんです、行政、民間、それから学は僕らのいるような大学ですね、産業、これはちよつと弱いのですが、やはり食品を集めていくためには企業とか店舗の協力を得ることは非常に大事であります。それから宗、宗教系の団体、これは天理教青年会本部が一生懸命にバックアップをしてくれています。

「官・民・学・産・宗」こういう色々なセクターが協働してフードバンクを作つて行く。こんなことは天理でなければできないことだと思つています。そういう協力関係の中で今年の5月より活動させて頂いております。

■フードドライブ

また家庭で余っている食品を持ち寄る活動のことをフードドライブといいます。ドライブは運転の意味ではないのですが、持ち寄って運ぶ、運ぶというところが運転ということに近いのかと思つています、持ち寄って集めてそれをフードバンクの福祉団体に寄付をする活動をフードドライブといいます。現在、天理市内の7カ所、8カ所ぐらいのこども食堂に食品を供給させて頂いております、もつともつとたくさん広げていきたいと思つております。いずれにしても、こういうフードバンクとか、フードパントリーという言葉

「地域福祉の推進力」

地域福祉の推進力

出会う場

「違い」「異なるもの」
などへの理解、
情報の共有

協働する場

生活のしづらさ
を含めた
問題解決への動き

協議する場

気づきや発見
などの話し合い、
課題の共有、蓄積

■地域福祉の推進力

を使っておりますが、こういった活動も結構天理教の教会で取り組まれている所が増えてきました。埼玉県のフードバンクのネットワークにも積極的に参加されている教会長さんがいらつしゃいます。

フードドライブやフードパントリー、また共同募金活動や経済的困窮者の問題であるとか、教育や子ども達の問題であるとか、障害者の問題であるとか、そういう活動を通じて社会的な孤立の問題に気付いていく、理解をしていくきっかけづくりになるのではないかなと思っております。

僕自身は特に誰かを支援しているとか、現場で活動をしているという事はあるわけではありませんが、みなさん方に色々な問題を知っていただくきっかけをたくさん作っていく、場合によっては、そういった支援を求めている人、困難な状況を抱えている人達が社会との接点を作ることが出来るように、出会いの場をたくさん作っていく、チャンネルをたくさん作っていくという事が僕は非常に大事なことでないかなと思っております。

地域福祉の推進力という図を上げさせて頂きました。これはもう10年以上も前に全国社会福祉協議会が研究委員会を立ち上げて、地域福祉というのはどんな力でもって作られていくのかを簡単に整理したものです。僕はフードドライブであるとか募金活動というのは出会いの場を作ることに繋がっているように思っています。

今回のワールドカフェという新しい研修の出会いの場を通じて協議を重ねて、色々な問題解決に向けて協働することによって、地域福祉の推進が成り立っていくのではないかなと思わせて頂いています。それではグループ討議を宜しくお願いいたします。

グループ討議総括【要約】 渡辺一城 講師

みなさま本当にお疲れさまでございました。心地よい疲れを感じられたのではないかと思います。高齢者、それから子どものこと、また、年祭活動に向けた教会活動のあり方について色んなご意見のポストイットを見させて頂きました。

高齢者等の状況把握についてはやはり個人情報の問題を懸念するご意見がありました。僕もちよつと思つたのが、見守り活動にしても、高齢者に対する訪問活動にしても、我々支援する側が受け入れる高齢者を対象としてとらえるという事ではなくて、やはりなにか、地域をこれまで作つて来られた、社会を作つて来られた、主体として尊重しながら見なきゃいけないのかなというように思います。

○ 高齢者の話題

そういった意味ではどこかのグループでしたでしょうか、こども食堂を運営するにあたつても地域の高齢者の方々と協力をしてエイジレスなこども食堂を運営していくというような在り方も意味のあることだと思いました。

高齢者も要介護等しんどい思いをされているお年寄りばかりではないので、結構色々な経験を積まれた方々がいる。商売や趣味や或いは特技を培つてこられた方々は多分大勢いらつしやると思いますので、そういった意味では色んな町の名人の方々がいらつしやる。そんな人達を色々と巻き込んで、我々が何か支援する、支える対象としてお年寄りを見るっていう事よりは、むしろそういうような人達が本当に地域の主体となつていただく活動としての立ち位置を継続して頂けるような巻き込み方というのも高齢者支援には必要なかなと思います。

ちよつと廻りますが天理で5、6年前にですね、ある職員が高齢者の一人暮らしの方々を支援する目的で、「高齢者元気創出プロジェクトTENR

I」っていう長つたらしい名前のプロジェクトを立ち上げたんです。僕も片足をつつ込んでいますが、いろんな高齢者を対象にした天理での活動があります。一人暮らしの高齢者の方を一人一人ピックアップして自分史づくりをする。

ある人にターゲットを絞つて、若い学生とか若い職員や地域の色んな専門職の方もいますから、そういった若い人達がそこに訪問をする。1度や2度じゃないですよ、何度も何度も訪問してですね、インタビューをしてその人のこれまで生きてきた生き様だとか生活だとかいろいろとインタビューして1冊の冊子を作る。タイトルは自分史ですと、その名も「その人物語」っていう、今まで3人くらいできたのかな、そういうことをしている団体があるんですが、何を始めたかかっていうと、手紙を書き始めたんですよ。メンバーの方々が書いた手紙はどこの誰に行くか分からないんだけど、手紙を包括支援センターの職員が担当としている地域の一人暮らしのお年寄りに無差別に配つて歩くんです。

コロナ禍ですけれども、なんていうか元気ですかとかね、食べてますかみたいなことを、子どもが書いたりするし若い人が書いたりするし、メンバーの方が書いたりするし、どこに行くかは分からないですがとにかく書いて、それを配るっていうそんな活動をされています。その名も「元気になレター」。「元気になあれ」と「レター」っていうのをかけて「元気になレター」。そういうことをやっていつて、調べてみたら大阪の方でもやはり地域でそのような活動があるようです。そうしていくと読む側の方が「自分を見守つてくれているんだな」「なにか気をかけてくれているんだな」っていうように気付かれる、助けられる主体になるわけですね。

そういう意味では「対象から主体へ」っていうんですかね、手紙を読むという役割も果たして頂けるなかに、年寄りの方々を見守っていくっていうことも一つあるのかなと思いました。

○子どもの話題

子どもの問題ですね。色々と話されていて、時間が足りなかったのかなっていうように思いましたが、子どもに対する支援のキーワードとしては、僕は先行投資なのかなと個人的には思いました。運動や活動にしても社会的運動をするにしても、子どもが大人になった時に「なんかどこかのおじさんがなんか子どもの時によく登下校の時に挨拶運動してたな」「おはようおはようとかなんとか言ってたな」みたいな経験を子どもたちが記憶としてインプットして、そういうようなことを自分たちが大人になったらそれをちよつと思いついて、こんなことが出来たらいいんじゃないかなみたいなね、そういう

記憶がまた伝承されるというか、そういう活動にもつながっていくのではないかと、そういった意味では大人の人達が子どもに対して挨拶運動をするとかね、こども食堂をするとか、ご飯を提供するとかっていうことも含めると、やっぱり子どもに対するある意味の先行投資という認識で、子どもの支援をしていくのも必要なのではというように思わせて頂きました。

○教会の地域活動

最後、教会の活動ですね。どこのグループではおつとめをしよう、おたすけをしようというふうな話がありました。僕ちよつとうちの信者さんで悩ん

でいることがあったんです。こうしたらいいかな、どうさせて頂いたらいいかなっていうように思っていて、うちの自宅にも神様を祀ってまして、朝の7時と夜の7時、おつとめをするんです。「あしきをはろうて」の「あ」、「あしき」の「あ」っていうフレーズを出した途端に神様が下りてきたんですよ。「あつ、こうしたらええんや」っていう、おおつてなつておつとめっていうのは本当にありがたいことだなっていうことをちよつと思いました。やっぱりその辺が僕は基本なのではないのかなと思います。

ただ、グループの討議でもありましたけれども、やはり教会そのものも、やはり地域とのつながりを持つということは大事なことだと思います。お寺なんかでは最近「看仏連携」っていうのですが、看護の看と仏教の仏。お寺がグリーンケアの中心になろうよという事で、看仏連携の研究会、勉強会をされているお寺が大阪にあるのですが、これも素晴らしいことなんじゃないのかなあと、そのようなことを通じて社会福祉の活動を進めていくという話もありました。何もお寺の真似をするわけではありませんが、教内も結構いろんな専門職、信仰を持った看護師さん保健師さん、社会福祉の関係者がたくさんいらっしゃいますので、教会を拠点としてそのような活動が出来たら面白いのではないかと思います。

そういった意味では、社会のニーズに応えるような活動をする。いろんな周囲とか社会に対して合わせていく活動を教会では出来るのではないかなと思います。教内のシンポジウムで、ようぼくというのは神様にもたれる術を持っているのがようぼくだと、神様にすがる技術を持っている。それがようぼくなのではないかとというような話のフレーズを聞いたことがあります。世間一般でも助けられ上手になりましょうという言い方を先生もたくさんいらつしやいます。僕はすごくいい言葉だと思っんですね。

神様にもたれる、神様にすがるということもひつくるめて、助けられ上手になつていただく勉強といえますか、学びを、教会活動を通じてしていく必



要があるのではないかと、先ほどのグループ討議なりポストイットのご意見を
見せて頂いて思わせて頂きました。

ちよつと蛇足になりましたが以上総括ということで終わらせて頂きます。
本日はありがとうございます。

.....

講師紹介

渡辺 一城 (わたなべ かずくに) 氏

・勤務先▼天理大学人間学部人間関係学科社会福祉専攻

・教会▼東本大教会部属 本豁分教会

・出身▼東京都 (育ったところは恵比寿。現在は東京有数のスポットだが、
かつては山の手の下町といわれるほど庶民的な町だった。現在の
東京の実家は府中。競馬場と刑務所がある市、最近マンショ
ンの建設が多い)

・専門領域▼地域福祉

・現在の研究課題▼地域福祉計画および障害福祉計画策定のあり方、宗教に
よる福祉活動とコミュニティ形成との関係性、地域福祉推進プ
ログラムとしての民間資金助成のシステムと方法

・大学での担当科目▼地域福祉と包括的支援体制 1・2、天理教社会福祉
論、ソーシャルワーク実習、ソーシャルワーク実習指導 1・
2・3、ソーシャルワーク演習 5 など。

社会的活動

・教内関係▼天理教社会福祉研究会委員、天理教ひのきしんス
クール運営委員 (2021年6月まで)、天理教障害者協議会委
員、社会福祉法人天理 監事、天理教社会福祉研究プロジェクト
事務局ほか。

・教外関係▼奈良県社会福祉協議会ボランティアセンター運営委

員会委員長、奈良県共同募金会配分委員会委員長、大和郡山市
地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会委員長、田原本町
地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会委員長、精華町社
会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員会委員長、奈良県協働
推進審査会委員、奈良県中央善意銀行運営委員会委員ほか。

いま、かかわっている福祉活動…

○奈良県共同募金会「奈良県びくすぺくすプロジェクト」

①テーマ型募金 (使途選択募金) とは

テーマ型募金 (使途選択募金) とは、共同募金会が審査・承認した
活動団体が、1月～3月までの間 (これまでの共同募金運動期間10月
～12月を踏まえて、共同募金会ではこれを「期間拡大」と表現してい
る)、解決した課題や解決のための活動を多くの方々に伝えて、共同
募金会にその団体の活動費として寄付してもらおう募金方法をいう。

②びくすぺくすプロジェクトの趣旨

「奈良県びくすぺくすプロジェクト」は、奈良県における「テーマ
型募金」として、「居場所づくり」「孤立をなくす」をテーマに、「居
場所づくり」活動を実践する県内の特定非営利活動法人、社会福祉法
人、ボランティア団体、福祉関係者、奈良県共同募金会の協働によ
る、地域の「居場所づくり」を応援するプロジェクトである。
主として、居場所づくりといった「地域における課題解決」と、参加
団体および関係者の「仲間づくり」(ネットワークづくり)を、趣旨
としている。

③過去の参加団体

こども食堂、依存症支援、無料塾、障害者施設・事業所、高齢者等の居場所・サロン、里親等から巣立った人達のアフターケア、地域交流食堂など。

○フードバンク天理

■フードバンクとは

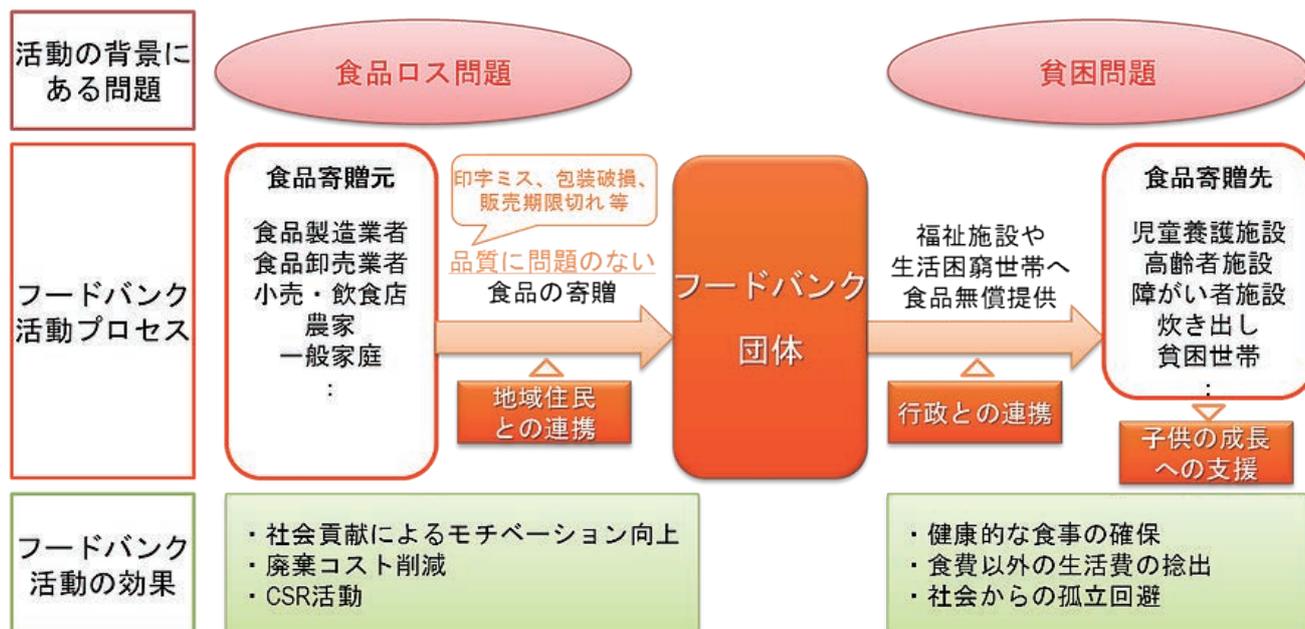
十分食えることができるのに廃棄されてしまう食品を、経済的に困窮を抱えている家庭などこれ食品を必要としているところに供給する福祉活動であり、また環境保護につながる活動でもある。(「もったいない」を「ありがとう」に)

■「フードバンク天理」

個人や企業から余剰食品の寄付を受け、食品を必要としている個人や団体等に届けることを通じて、生活課題を抱える地域住民等の支援助と食品ロス削減を推進し、支え合いの地域づくりに貢献することを目的として、「官・民・学・産・宗」による「天理ならではの」のフードバンク活動を行っていくために、2022年5月15日に設立。

天理教青年会本部と天理市社会福祉協議会による共同事務局。「コフンマルシェ」や各種イベントでのフードドライブを実施、天理市内のこども食堂等に食品を提供。

フードバンク 活動全体像



トピック 北海道教区

地域に根ざした活動の持続と発展を支援

民生児童委員連盟委員 北海道教区

坂下寛幸氏

このたび北海道教区では子ども食堂ネットワークを開設した。このネットワークは北海道教区内で運営されている、子ども食堂、地域食堂、地域サロンなどの地域に根ざした活動の持続と発展を支援することを目的に創設されたものである。

- 1、子ども食堂、地域食堂、地域サロンなどの地域に根ざした活動を広く周知させ、その理解と有用性を広く伝える。 ↓ 広報活動
- 2、各地域活動運営者の活動が、持続的かつ発展的なものとなるよう教友への支援をつのり、運営者と支援者との橋渡しを行う。 ↓ 支援活動
- 3、運営者同士の情報交換、交流、学習の企画運営。 ↓ 共同学習活動
- 4、あらたに地域活動を志す希望者の拡充とその支援。 ↓ 拡充支援活動

これまでのネットワークの活動としては、道内における活動調査をはじめ、情報交換の場として「子ども食堂トークンゲイ」を開催し、運営者同士の交流、それぞれの活動を通じた喜びや、それぞれの抱える問題などを話し合う場を設けてきた。

そうした中、北海道教区ホームページ内に「天理教北海道子ども食堂ネットワーク」のページが開設された。

このホームページは、北海道子ども食堂ネットワークがめざす、4つの目標を実現するため、または教会による地域活動の活性化の役割を期待して開

設された。

その具体的な項目は、「子ども食堂活動の情報発信」、「子ども食堂所在地情報マップ」、そして、「子ども食堂への支援」となっている。

特に、支援活動への取り組みは、各食堂の活動の安定的持続化のために必要な、「食材などの物的資源」や「ボランティアなどの人的資源」を北海道在住のようぼくはじめ広く社会に働きかけ、たすけあいの輪を作り上げていくための大切な役割を担っている。

このホームページが北海道という地域性を活かし、農業、漁業に携わる教友に地域活動へ理解とその参画を啓蒙し、持続可能な食料提供と共に、調理や給仕などのボランティアや学習支援など、人のつながりを作り出していくこと、ひいては、地域おたすけ活動を展開していくためのプラットフォームとしての意味をもち、より一層充実した活動へつながることに期待が持たれている。



ホームページ
「天理教北海道子ども食堂ネットワーク」

大阪教区福祉部課題別研修Ⅳ（令和5年8月31日・於大阪教務支庁）

大阪教区では8月31日、苦悩する現代社会の子育てに焦点を当て、吉永道子氏を招いて教会でできる子育て支援活動について、「みんなで作ろう子育ての輪」をテーマに研鑽を図った。

大阪教区福祉部課題別研修Ⅳ

『子育て支援活動について』

講師 民生児童委員連盟副委員長
梅一分教会長夫人

吉永 道子氏

■講演要旨

教会長夫人でもある吉永氏は夫である教会長の承諾を得て、自らのママ友を中心に元保育士や看護師、PCインストラクターやヨガ等々の様々な専門



性のある近隣の協力者を開拓し、厚生労働省が進める「地域子育て支援拠点」に、親神様、教祖をお祀りする教会がセンターとなり、一列兄弟が互いに助け合う理想的な子育て支援活動を展開している。

町の小さな30坪の教

会に年間の利用者は3300名を超え、その温かな親心溢れる子育て拠点はまさに地域の親里のごとくである。「ここだと私ってゆつくりできて、わがままも言えるんだな〜って、かあかのおうちに預ければ、パパとランチとか行って、ちよつとゆつくり休めるんだ」と思っていただけのことから、心を繋ぐ役割ができていくという。

当初は宗教施設において公共的な活動には制約があるのでと危惧されていたが、関係する議員や専門家の助言等もあり、非営利活動法人としての社会性の保持に努めるとともに、産後うつやDV、ヤングケアラーや発達的課題等に関する深刻なおたすけの現場ではあっても、常に底なしの親切でもってスタッフとともに一杯のお茶を飲みながら、やんわりと心のしわを伸ばしていくことから始めているという。

子育てママのストレスの緩和を図り、リラックスした楽しみの持てる支援活動をしていくうちに、支援を受けていたママがいつしか支援に回るようになり、今では行政との包括的連携をはじめ「両親学級」「おっぱい相談」「赤ちゃん食堂」の普及や、地域の防災教育や各種の文化活動と連携したプラットフォームとしての存在を呈している。

「かあかのおうち」とネーミングする教会をお借りしての子育て拠点としての活動は、教会関係者のみならず地域の人々や資源を生かしながら、妊娠期から切れ目のない子育て支援を継続することにより、街中で孤独にして孤立無縁の子育てに苛まれ、心ならずも不適切育児や養育に陥るママさん方の予防的なおたすけ推進の場として、いつでもどんな時もどんな人にも分け隔てなく、困った時には遠慮なく駆け込むことのできる、親子を見守る居場所としての社会的使命が実現されている。

参加者は70名であった。講演後テレビ東京が吉永氏家族を直撃取材したビデオを鑑賞した。



参加者の声 吉永道子先生のお話を聞いて

・ 酢藤 真美子 民生児童委員

吉永先生の活動は以前からよく存じておりましたが、益々のご活躍に感銘し、とても刺激をいただきました。私も地域の民生委員を務め、教会では里親（ファミリーホーム）として子ども達と共に生活をしております。

子育てに悩み、頼るところもなく挙句の果てに子どもを手放す結果となり、子ども達は里親家庭に引き取られますが、そうなる前に親子夫婦で「頼れる居場所」「救いを求められる場所」「心が救われる場所」となる活動、また、子育て中の親御さんとの関りを持つ「地域に根差した教会」になりたいとずっと思っております。

しかし、人の手があれば…と。出来ない理由を並べておりました。先生の冒頭のお話にもありましたように、熱い気持ちさえあれば何もない所からでも生み出すことは出来るのだと気付かせて頂きました。アリのような歩幅ですが、親神様、教祖にお喜び頂けるように、心新たに目標に向かって、教会家族一丸となって前に進みたいと思えます。

・ 飯田 照代 こども食堂運営

大阪教務支庁に初めて足を運ばせていただきました。私の第一印象は敷地の広さに驚きました。受付を終え講演会場に入らせていただくと、汗であふれていた私の背中がスーと汗も引き、用意してくださっていたお茶もいただき、大勢の参加者にも関わらずなんと丁寧に一人ひとりを迎えてくださるスタッフの対応に心打られました。

最初の男性の方の挨拶は、自分のできることは何かと考え『触れ合い酒場』を月一回催したと話されました。私も『歌声酒場』をオープンしましたが、続けることは困難でした。



梅一分教会の吉永道子先生の話聞いて、私も子ども食堂として同じようなことをしているので、興味深く聞かせて頂きました。ビデオにもありましたが、むつかしい病気を持っている優ちゃんに対する親の姿勢が、全ての人に勇気と感動を与えていることの素晴らしさを実感しました。プラス思考であり、実行力、これが本当の親心であり、一人ひとりを大切にしたい育て方であると痛感しました。

私も心の持ち方ひとつで人生を変えることができ、人の繋がりを大切に『安堵子ども食堂』を継続していこうと励まされました。

・森眞千代 里親

民生児童委員のご用を始まりに活動が広がり「子育て広場」「一時預かり」、様々なイベントを通して教会がどんどん人の集う場になっていく様は、まさに理想的な教会の姿だと感じました。ひらめきを実現していこうとされた積極的な行動力にも感心しました。ただでさえ教会のこと、お孫さん達のお世話など時間の余裕はないでしょうに、ご多忙さは想像を超えます。ようぼくとして自分に何が出来るだろうと模索を続けられたからこそ、おやさまがヒントとチャンスをお与えくださっているように思いました。

私も里親のご用を頂く過程で似たような経験がありとても共感出来ました。自分にできることを常に求め続けていると、ちょうど良い時に、自分の得意な分野で出来る、ちょうど良いご用をいただけるからです。

お孫さんの身上で感じられたことも、きっと今の活動に生かしていらっしやるのだらうと思います。「かあかのおうち」が今後益々おたすけの場へと繋がっていかれますようエールを送らせていただきます。



特定非営利活動法人・子育てひろば

かあかのうち



Joyous Life

「かあかのうち」は、子育て親子と妊婦さん、ひろばスタッフとのつながりから生まれるものを大切にしています。

「おかえりなさい！」いつも待っています。

そして、親への感謝～産み育ててくれたことを実感できる場所です。

〒131-0032
東京都墨田区東向島 6-16-10

でんわ／ 03-3614-5016

メール／ kaakanouchi@may.so-net.jp

ホームページ

<https://kaakanouchi.wixsite.com/kosodate>



かあかのうちについて (ホームページより)

2016年5月に東京都墨田区で初めての民間子育てひろばとして開設いたしました。自分たちの育った市区町村以外で子育てをしている母親たちの「アウェイ感」を「ホーム」に変えたいという思いから、子育て経験者による交流イベントを実施し、実家のように安心できる場の提供と、地域との懸け橋の役割を担い始めました。

子育て地域拠点として、ひろばでの昼食、お茶タイムで親同士の自然な語り合いの場を生み、仲間づくりにつながっています。親子が地域とつながる入り口として、墨田での子育てが生まれ育った場所になるように寄り添っていきます。



代表 吉永 道子さん



ハロウィンパーティー



季節の行事は
みんなで楽しもう

七夕まつり

あたたかい空気、
楽しい雰囲気を感じて欲しい。
そしてみんなの笑顔のために
スタッフ一同頑張っています。

たいそう教室

ピラティス

「かあかのうち」パンフレットより

お知らせ

『地域のおたすけ研修会』

テーマ(暫定)

地域のみんなでこども・子育てを考える

— 教会に期待される役割とは何か —

期 日 立教187年(令和6年)5月29日(水)

場 所 愛知教区予定(岐阜、三重教区との合同開催)

コンセプト

要支援・要保護児童(保護者への養育支援が特に必要、保護者による監護が不十分な児童は約23万人)、特定妊婦(出産前において出産後の養育支援が必要な妊婦は約0.8万人)の支援の充実が求められています。訪問支援や居場所事業、親子関係の構築に向けたペアレントトレーニング等の支援が開始されています。

地域における教会はこのような社会状況の中でどのように関与していくことができるでしょうか共々に考えたいと思います。



令和 4 年度決算及び 5 年度予算

4 年度収入合計	571,306 円
4 年度支出合計	106,611 円
5 年度繰越金	464,695 円

収入の部

項目	4 年度予算額	決算額	5 年度予算案	備考
繰越金	320,306	320,306	464,695	
年会費	250,000	251,000	250,000	
研修参加費	30,000	0	30,000	
委員活動費	45,000	0	50,000	
利子	10	0	10	
合計	645,316	571,306	794,705	

支出の部

項目	4 年度予算額	決算額	5 年度予算案	備考
おやさと研修会	50,000	26,374	50,000	講師接待、物品購入
おたすけ研修会	100,000	0	250,000	
委員会助成	50,000	0	60,000	
慶弔費	30,000	14,521	30,000	
事務費	100,000	65,716	100,000	連盟だより入稿費、事務用品
予備費	315,316	0	304,705	
計	645,316	106,611	794,705	

監査報告

監査の結果、活動は適正に実施され、帳簿の記載
並びに証拠書類等は適正に且つ正確に処理されておりました。

令和 5 年 4 月 1 日

年会費納入について

天理教民生児童委員連盟では、会員の皆様に、年会費納入をお願いしております。今年度未納の方には振込用紙を同封しております。何卒、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

○年会費一人 1,000 円

下記の教区・支部は教区・支部で一括払い

北海道空知支部、北海道札幌中南支部、埼玉、東京、石川、福井、山梨、岐阜、静岡、愛知、京都、兵庫、岡山、山口、徳島、香川、愛媛、高知、鹿児島

天理教民生児童委員連盟 委員紹介

氏名
教区
直属教会・所属教会



吉永道子 副委員長
東京教区
敷島・梅一



大前道廣 副委員長
兵庫教区
社・明畑



山田常則 委員長
奈良教区
西・傳法



中村誠一 委員
北海道教区
洲本・統典



上平智一 委員
岡山教区
大縣・天平



上杉美子 委員
大阪教区
中河・島里



毎田孝則 委員
山口教区
周東・鶯谷



三代信行 委員
鳥取教区
笠岡・米美



橋本直之 委員
大阪教区
網干・網阪



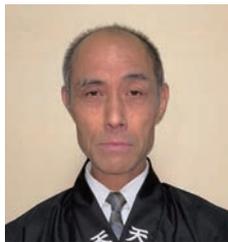
岡崎むつる 委員
香川教区
本島・与島



青木健裕 委員
愛知教区
本愛・本枇杷島



末村真人 委員
兵庫教区
兵神・湊西



平田道則 委員(新)
奈良教区
鍛冶惣・鍛冶平



坂下寛幸 委員(新)
北海道教区
敷島・釧正



安村真一郎 委員(新)
京都教区
中背・中背



酢藤真美子 委員(新)
大阪教区
敷島・眞榊



板倉元 委員(新)
滋賀教区
甲賀・押立